

2:11 ですから、思い出してください。あなたがたはかつて、肉においては異邦人でした。人の手で肉に施された、いわゆる「割礼」を持つ人々からは、無割礼の者と呼ばれ、
2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。

2:13 しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。
2:14 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、

2:15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、

2:16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

2:17 また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々に平和を、福音として伝えられました。

2:18 このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

2:20 使徒たちと預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身が

その要の石です。

2:21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。

2:22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

エペソは異邦人の教会でしたから、異邦人を忌み嫌っていたユダヤ人とは仲良くできるはずなかったのですが、信仰によっては「近いものとなり」、二つが一つになり、平和が実現されました。同じように私たちもこの世では仲良くできずらい関係の者同士が、一つとなることによって、すばらしい証ができるのです。

そのように教会は、異質な者同士が組み合わされるところです。そして聖なる宮となれるです。すなわち神の臨在を実現できるのです。

キリストこそが私たちの隔てを廃棄されて、和解を成し遂げられる方です。和解ができないのは、私たち人間の内にある「敵意」が存在しているからです。「敵意とは、さまざまな規定から成り立っている戒めの律法」なのでもあります。つまりユダヤ人にはユダヤ人の律法があり、異邦人には異邦人の律法があるということで、両者がそれに固執しているということです。

人間関係の場合でも、和解できないお互いというのは、両者が互いに自分の正しさを主張するところにあります。相手が間違っているとするところに歩み寄りも、共通理解も成り立たなくなってしまうのです。

しかし、イエス様は「ご自分の肉において、敵意を廃棄され」たとあります。つまり、自分を正しいとしつつ相手を理解しない、この「敵意を」十字架で廃棄なさったのです。ということは、本当に十字架を自分のためと分っている人は、この敵意を持っていないのです。つまり、自己正当化する律法「戒めの律法」は廃棄されているという

ことです。

私たちはどうでしょうか。「同じ国民」、「神の家族」として、和解しているでしょうか。キリストのからだである教会が「組み合わされた建物の全体が成長」するように、すべての信徒たちと和解しているでしょうか。

気の合う人ばかりではなく、異質、対立関係となりやすいような人とも、むしろ積極的に交わりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

